

# 報 会 話 懇 算 予

第 39 号  
平成26年 7 月

## 情報を活かす

山田 修路



(山田 修路氏)

阻止するため、警戒網をは

一昨年（平成二十四年）九月に農林水産省を退職した後、皆様のご支援のおかげで、出身地の石川県から昨年（平成二十五年）七月に、参議院議員に選ばれました。私自身にとっても、予期せぬ進路でしたが、現在は、家族（といっても、家内と愛犬だけですが、）も金沢に本格的に転居し、私は、東京と石川県との間を行ったり来たりの日々をしています。

さて、最近、NHKの大河ドラマの影響もあって、黒田官兵衛を題材にした「播磨灘物語」を読んでいます。司馬遼太郎の小説の中でも、これまでは、読んでいなかった一冊でした。ハイライトは「備中高松城」の水攻めでしょう。数年前に、城跡を見学したことがあります。「なるほど、こういう地形なら水攻めもできるなあ」と合点がきました。

この小説の面白味は、「情報を活かすことの大切さ」です。豊臣秀吉が「本能寺の変」に関する情報格差を最大限に活かし、「天下人」への道筋をつけました。

本能寺の変は、六月二日の早晩に、京都市内で起こった事件でした。この情報は、各地で戦闘などに当たっていた武将たちに、相当なスピードで伝播していききました。

京都から二〇〇キロ以上離れた備中高松城周辺に布陣する秀吉の下に、どのように情報もたらされたのか、諸説ありますが、この小説では、本能寺の変の一日半後に織田信長の側近から官兵衛に伝えられたことになっていきます。この情報を得た秀吉側は、明智光秀から毛利側への情報伝達を阻止するため、警戒網をはり、光秀からの使者を捕らえ、味方に対しても箝口令を引き、情報格差を利用し、敵・味方の情報格差を利用して、有利な条件で停戦協定を締結・実行（清水宗治の自刃）し、「中国大返し」を成功させました。まさに、「情報の格差」を活用した勝利と言えるでしょう。このほかに、秀吉は他の武将に対して、「信長は健在」との情報流し、味方に付けようと工夫した様子もうかがえます。

一方で、情報を十分に活かすことができなかった武将もいました。織田家の二番家老、丹羽長秀です。彼は、大坂・堺付近で、四国攻めの準備中で、秀吉よりも一日以上も前に、本能寺の変を知ったのです。兵力もそれなりに有していたのですが、箝口令が徹底できず、「信長の死」を知って動揺した多くの兵が逃亡したため、明智光秀を攻撃することをあきらめ、守りを固めるという行動を取らざるを得なかったようです。

現代においては、情報の重要性は益々大きくなっていると言えます。ネット選挙が話題になる今日、選挙戦だけでなく、様々な活動の中で、情報戦を有利に戦った者が、最終的な勝者になれるのではないかと思います。

### 目次

情報を活かす	山田修路	1
対談／農林水産主計官時代を振りかえって現在想うこと(一)	竹島一彦 上野博史	2
随筆 趣味の割り箸アート	西澤昌弘	4

平成25年度決算の監査を終えて	池田 軒	5
総会及び懇談会の開催		6
第39回ゴルフコンペの開催		6
新規加入会員・人事異動		6
平成25年度収支決算等について		7

題字は檜垣徳太郎書